

インド各地をタクハツ托鉢遊行し、シャカ釈迦は 80 歳になった。ある日、食あたりになり、クシナガラ城外のシャラの木の間サラソウジュ(沙羅双樹)で、従弟子のアーナンダに床をとらせ、西の落日に向って頭を北にして(頭北面西)横になった。釈迦の死が近いと知ったアーナンダは嘆き悲しんだ。そこで釈迦はアーナンダを病床に呼び、静かに語りかけた。

「悲しむな。生れた者はすべて滅びるものである。愛する者といつかは別れねばならぬ。この世は無常だと教えたではないか。今ここに私の肉体は滅びるが、私の教えは生き続ける。私の亡き後は、私の教えと戒めを師として、怠ることなく精進努力せよ。これが私の最後の教えである」

2月15日、釈迦は入ニウメツ滅・ネハン涅槃に入った。以後この日をネハンエ涅槃會として記念しているのです。涅槃とは、迷いの無くなった悟りの境地なのです。